

令和 7 年度
家畜衛生ポスターデザインコンテスト
表彰作品

令和 7 年 12 月

農林水産省消費・安全局

動物衛生課

家畜衛生ポスターデザインコンテスト事務局

総評

審査委員長

令和7年度家畜衛生ポスター・デザインコンテストには、1歳から75歳まで幅広い世代の方から、全部で102点の応募をいただきました。特に、小中高生の皆さんからの応募が多く、豚熱という病気について調べながら描いていただいたことが伝わってきました。第1回に引き続き、表現力に富んだレベルの高い作品が多く寄せられ、今回も頭を悩ませつつも楽しみながら審査をさせていただきました。

応募作品は、豚熱を広げないために注意する事を、4つあるいは3つ、イラストと言葉でわかりやすく伝えようという努力がみられた力作ぞろいでした。イラストや字体にも細かく気を配って、目立ちやすくきれいな作品が多かったようです。一方で、なぜこうした注意が必要なのか、あるいは豚熱を広げないことで何を守るのかという点についての理解と表現が少ないように感じられました。特別賞に選ばれた、養豚場の豚を守る消毒や豚肉を使った料理をイメージした作品は、豚熱対策を理解するうえで貴重な視点だと思います。

昨年以上に幅広い年代の方が興味を持って参加してくれたことに、本コンテストを実施したことの意義を感じます。本コンテストが、一人でも多くの方にとって、日本の畜産業を守るためにより良い行動をとるきっかけとなったら幸いです。

氏名

沢田 佳伸

都道府県

三重県



<作品コメント>

「豚熱の防止」という、一般的にはまだまだ知られていない内容のため、どなたにも注意点がわかりやすく伝わるように文字とイラストで表現しました。また、文字も手書きにすることで、親しみやすく興味を持っていただけるように工夫しました

<審査員コメント>

総合的な対策がイラストで分かりやすく整理されており、親子のイラストにより、行動のイメージがしやすくなっています。情報の流れもスムーズで初めて見る人でも内容をすぐ把握できる構成であると感じました。

氏名

岡部 紘万里

都道府県

群馬県



<作品コメント>

豚熱の発生を防ぐために私たちにもできる予防策を広めたいという思いで描きました。

インバウンドの回復と同時に、外国人の登山者も増えています。広く周知できるように、シンプルでわかりやすいように心がけ、英語表記もしました。

<審査員コメント>

泥を落とすイラストではなく、足跡にウイルスが付着している様子を視覚的に示しており、伝えたいメッセージが明確に伝わります。

氏名

大谷 博之

都道府県

福岡県



「豚熱を広げないためにできること」

1. イノシシの死体を見つけたら、触らず、すぐに自治体に連絡してください。
2. 山に入った後は、靴の泥を落としましょう。
3. 家畜のいる施設には近づかないようにしましょう。

<作品コメント>

豚熱を広げないための3つの対策を、3つの色と3つのイラストで作成しました。家畜の病気や対策を広めるためのきっかけになるように、分かりやすいイラストで描いています。

<審査員コメント>

3つの対策を3色で整理し、すっきり分かりやすくまとめられており、視認性が高く、人目を惹く工夫がしっかりと盛り込まれていました。

氏名

野崎 由美

都道府県

熊本県



<作品コメント>

アウトドアを楽しむ皆さんに気軽に行える豚熱対策を伝えることを目指しました。畜産と自然を共に守っていきましょう。

<審査員コメント>

アウトドアに特化した内容が明確に表現されており、初めて見る人でも取り組むべき行動が分かりやすい作品だと感じました。

氏名

繩 乃々香

都道府県

北海道



<作品コメント>

私の住む北海道は野生の猪は居ませんが養豚場がたくさんあります。猪が居ないからといって豚熱ウイルスは無関係というわけではなく人の靴や服などに付いて感染するということを知り、それが伝わるように描きました。

<審査員コメント>

小学6年生とは思えないほど豚熱について学び、理解したうえで表現されており、レイアウトも見やすく完成度の高い作品でした。

氏名

松本 芽久

都道府県

岡山県



<作品コメント>

畜産農家さんの徹底した衛生努力のおかげで、おいしい豚肉が食べられています。豚熱は人に害がない、よかったです、で終わるのではなく、私たちが知らぬ間に豚熱のウイルスを運ぶこともあることを知ってもらいたいです

<審査員コメント>

豚熱というと自分と関係ないのではと思ってしまいがちですが、「普段食べている豚肉製品」を大きく書いた作品は豚熱対策を自分ごとにすることのインパクトがあります。

動物検疫所長賞

氏名

須貝 知実

都道府県

東京都

STOP!



豚熱感染防止はあなたの手から

人には感染しませんが、ウイルスを運んでしまうことがあります。
It does not infect humans, but you may carry the virus.

海外から肉製品を持ち込まないでください。

Do not bring meat products from abroad.

野山に入った後は、靴についた土をしっかり落としましょう。

After entering mountains or forests, clean the soil off your shoes thoroughly.

イノシシの死骸などを見つけた場合は、触らず自治体に連絡してください。

If you find a wild boar carcass, do not touch it. Contact the local authorities.

家畜 のいる施設には近づかないようにしましょう。

Stay away from facilities with livestock.

<作品コメント>

豚を意識した優しいピンクをメインにおきつつ、インパウンド盛んな中、海外の方々にみていただけるように英語と日本語で併記しました。

<審査員コメント>

インパクトのあるデザインで注目を集めやすく、英語が表記されており、海外から日本に来た方にも見ていただけるような工夫がされています。

氏名

吉田 晓人

都道府県

東京都



<作品コメント>

これまで見たことのないデザイン、注目が集まるようなデザインを心掛けました。

氏名

内藤 実里

都道府県

東京都



<作品コメント>

多くの人の目に留まるよう配色を黄色と黒の警告カラーに致しました。また、豚のシルエットに注意のシンボルを描くことで豚とシンボルの関係性を瞬間的に認識できるようにしました。

佳作

ペンネーム

もりそんいづみ

都道府県

東京都



<作品コメント>

畜産関係者以外の人にも目に留まるよう、丸みや配色で親しみやすさを意識しました。一方で、動物たちの命に関わる深刻な問題であることを示すため、フォントはカッチリとしたものを選びました

氏名

真鍋 彩音

都道府県

香川県



<作品コメント>

私は豚肉が大好きです。そのため、豚熱をひろげないためにできることというテーマで、豚熱の被害を少しでも減らせたらと思いこのポスターを制作しました。山に投棄された生ゴミを野生の猪が漁り、味を覚えて人里まで降りてくるケースがあります。豚熱のウイルスは人や物を介して農場に侵入してしまうことがあります。致死率も非常に高いです。このポスターから注意喚起を行い、人も野生の猪も家畜がいる施設の中へ入ったり、近づいたりしないように呼びかけられたらと思います。

佳作

ペンネーム

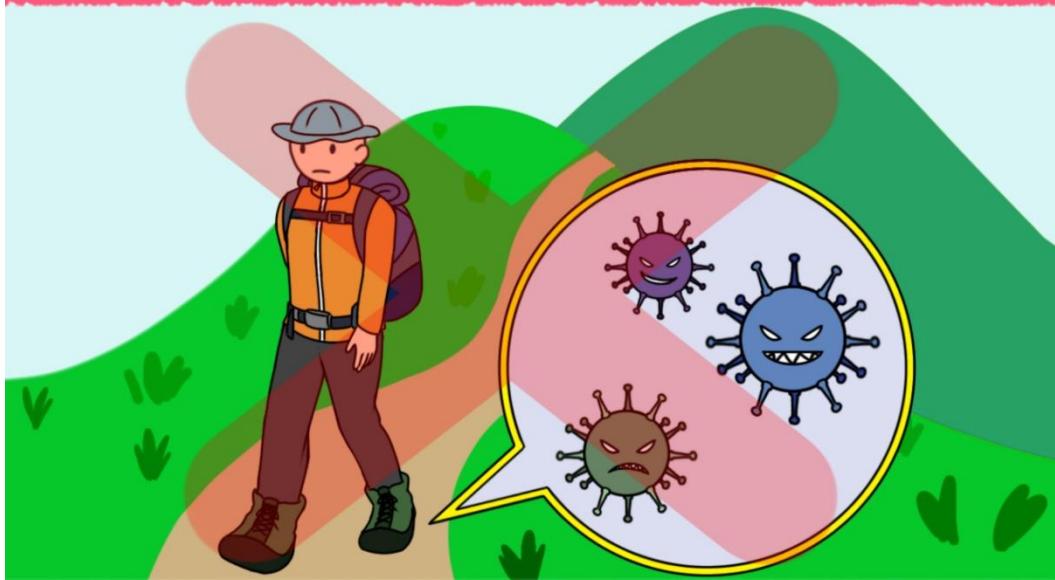
ハナヤマ

都道府県

京都府



豚熱をひろげないためにできること



山に入った後は靴の泥をおとそう！

<作品コメント>

豚熱感染予防対策をわかりやすく伝える事を意識してシンプルなデザインのイラストで表現しました。このイラストが豚熱発生抑止の一助になれば幸いです。

氏名

工藤 輝星

都道府県

東京都



<作品コメント>

イノシシ人間ブタのキャラが状況を説明しつつ全体の色合いとバランスを取り、文字を目立たせパっと目に入るようにしました。このポスターで気をつけてくれる人が増え、1匹でも多く生きればいいなと思います

氏名

井上 靖彦

都道府県

大阪府



豚熱を広げないためにできること

山に入った後は、靴の泥を落としましょう

山に入った後は、ごみを持ち帰りましょう

家畜のいる施設には近づかないようしましょう

<作品コメント>

シンプルに豚熱の注意喚起が一目でわかるようにしました。豚とイノシシの顔をシンプルにデザインすることにより人の目につきやすく考慮しました

氏名

青木 勇麻

都道府県

徳島県



<作品コメント>

多くの人々に豚熱を知ってもらいたいのでわかりやすい形で絵にしました。少しでも、たくさん的人に知ってもらい、防いでくれる事で、減らしていくかと思ひありがとうございました。

氏名

中平 侑希

都道府県

高知県



<作品コメント>

幅広い年代の方々が見ることを想定して簡略化したイラストを使用しました。短い文字を加えることでさらにわかりやすくしました。背景は自然を感じさせる緑、豚熱をとんねつと読む人がいたのでふりがなをつけました。

氏名

白武 知美

都道府県

佐賀県



<作品コメント>

佐賀県西部家畜保健衛生所総務課に勤務して2年目の夏、県内で豚熱が発生しました。県職員獣医師を中心に他県からの応援獣医師の方、JAの方、建設業協会の方、自衛隊の方、県庁一般職員…本当にたくさんの方々が一丸となって豚熱と闘ってくれました。あれから2年、野生いのししに感染がひろがっています。豚熱をくり返さないために、一般の方にも感染拡大防止に協力いただきたいと思い、応募いたしました。